

### 第3回愛知県商業・地域貢献活動懇話会 議事概要

日時： 2024年2月14日（水）午後1時30分から午後2時52分まで

場所： 愛知県三の丸庁舎 8階 801会議室

出席者：11名（伊藤委員、鵜飼委員長、加藤委員、金山委員、西脇（委）委員、  
西脇（正）委員、野尻委員、長谷川委員、藤田委員、本多委員、後藤委員代理）

#### <議事>

##### （1）条例施行後の取組・施策展開等について

- ・資料1～5に沿って事務局から説明後、意見交換

##### （主な意見）

#### <来年度実施の表彰事業について>

- ・ 表彰制度について、地域貢献賞というのはあちこちにある。日本ショッピングセンター協会でもかなり大規模にやっている。大型店と商店街では規模が違うので貢献の尺度が難しいが、名古屋市商店街振興組合連合会でも17～18年前、地域貢献賞というのを作った。そういうのも参考にしながら、県の独自性を出していただきたい。意外と表彰はマスコミに取り上げられやすく、商店街の励みにもなる。
- ・ 表彰における審査基準は非常に大事。資料4記載の想定される事例は少しくエスチョンがある。地域特産品に興味があるのは観光客で地域の人ではないかもしれない。空き店舗も店になったほうがいいのかもかもしれない。今までの先行事例に引きずられているかもしれないが、県が考えている地域貢献とは何かを明らかにしたうえで、基準をしっかりと作っていく必要がある。
- ・ 広報的な価値は大型店にとってはメリット。直接的な補助でなくても結果として、持続性のある事業の芽が生まれそうな気がする。例えば資料5記載の空き店舗は無人店舗や移動販売のベース出荷拠点などとして根づいていく可能性がある。北陸地方での移動販売では、単なる買い物にお困りの方を何とかするだけではなく、地域のコミュニティの場が生まれたり、皆が集まるので関係性が良くなったりしている。今回もこういうプロジェクトを通じて、マッチしそうな気がしているので、そういったところをインセンティブと捉えればいいと思う。

### <市町村の役割について>

- ・ 市町村の役割について、条例では法的な制限もあることからなかなか書けないということだった。ただ、やはり市町村に何が求められているのかというのは大事。これから商店街振興、大型店と連携していく上で、市町村に対しては、こういったことを求めていきたいということは、県としてしっかり説明して進めていただきたいと思う。
- ・ ただ、いろんな市町があって、課題感が違うと思うので、いろんな市町の実情も県としても把握しながら、多少アレンジをしながら、進めていくべき。
- ・ げんき補助金については、制度的に市町村が絡まないといけない。市町村に対しても地域貢献という視点から商店街の人たちにもしっかりとPRできるようにしないといけない。地域貢献活動の中には、イベントだけでなく、移動販売や災害時のBCPなどまちづくりに関連するものもあり、大型店、商店街、地域の住民がどのように一緒に進めていくのが重要だが、これには市町村と一緒にやっていく仕組みが必要。
- ・ げんき補助金等を活用していただくためには、市町村だけでなく商工会のような支援機関と連携して周知することが必要であると思う。行政だけでは難しいと思う。商工会から商店街の人たちにPRしながら、地域を良くしていきましょう、事業をする場合は支援制度があるから使いましょうと。また、大型店と組みたい時は直接行けなければ、市町村から県を通じて大型店と仲を取り持ってもらおうとか、そうしたこともしていくべきだと思う。

### <条例・施策のPRについて>

- ・ 条例についても施策についても、やはりまずは知っていただくということが重要。プレミアム商品券ですら、知らなかったということがある。これだけ魅力的な内容をまず知っていただくことはすごく大事だと思う。
- ・ PRについて、条例だけでPRというのは少し地味なので、第1回目の表彰と併せてだと取り上げやすいのかもしれない。補助金のこととか関係していて情報を取りに行く人はアンテナを張っていきそうだが、一般の人は必ずしもそうではない。楽しそうなイベント的なものだと一般の人でも興味がわく。

### <地域におけるプラットフォームについて>

- ・ 資料4の2番（商店街の未来を拓くプロジェクト）、このプラットフォームの中で大型店連携型を作り、影響力があつて力もある大型店も入って来てねという形、これは大変いいと思う。商店街の未来は地域の未来と連動するものになっているので、こうした何か核になってやれるものがあることは大事なので、この2番の事業について、かなりウエイトをかけてやっていただけるとよい。
- ・ 国の商店街・街づくり支援も今まではハード・ソフトの補助金だったが、来年度からは、地域ごとに異なる課題を自分たちで認識したうえでそれに対して動ける人をサポートする、いわば、地域における体制づくりの部分を国で支援する。この未来を拓くプロジェクトはそのベースにもなり得る。人づくりも含めてしっかりやっていく必要があると感じる。
- ・ 地域貢献は綺麗事だけじゃ駄目で、それだけだと地域は続かない。生活ができる状態を作らないといけないということはすごく共感している。大型店も店を作るはいいけれども、そこの周りにお客様いなくなったら成り立たない。だから、お互い様であり、地域を大切にしないと大型店も続かない。
- ・ 大型店は地域と一緒にやってかないと絶対事業が続かない。もちろんボランティアじゃないので収益が必要だが、共同関係がないと絶対成り立たないと感じている。関わり方はいろいろあり、お互いが支え合う関係でもいい。結果としてお互いが良くなればいい。

### <全体について>

- ・ 持続可能な地域づくりがベースにあつて、そこがより充実していくようなまちづくりが重要である。そうしたまちになるように、地域貢献というようなものがしっかりと根を張っていくと良いと思う。そのためには、この表彰制度もブラッシュアップしながらしっかりとPRしつつ浸透させていく必要がある。同時に市町村の役割が重要であり、改めて県の立場からでもはっきり説明していくということ、これを機に行っていただくべきである。市町村もプラットフォームの一員だと思うので、その意味で、地域の一員としての市町村の役割を改めて強調していただきたいと思う。